P 51

比較的まれな肺外結核の２症例

[1] 埼玉医科大学病院　中央検査部、[2] 埼玉医科大学　感染症科・感染制御科

○金澤 梨奈[1]、岸　悦子[1]、渡辺　典之[1]、前崎　繁文[2]、山口　敏行[2]、樽本　憲人[2]

はじめに】近年、結核症の患者数の減少は鈍化しており、特に高齢者における結核症の増加が懸念されている。結核症の多くは肺結核であり、その以外の結核症を肺外結核とされる。肺外結核はときに診断が遅れ、治療や感染対策の際に問題となる。今回、我々は比較的まれな肺外結核である中耳結核と脊椎カリエスを経験したので報告する。【症例 1】80 歳代男性。2 月に前立腺肥大手術の為他院入院中、右耳漏、右耳痛、右顔面麻痺出現。加療を行うが改善を認めず当院を受診した。受診時、右耳内に耳漏と肉芽を認め、頭部 CT 写真では骨破壊は乏しく軟部陰影を鼓室内に認めた。胸部レントゲンは正常。結核の既往歴はない。抗酸菌塗抹検査でガフキーは陰性、PCR 検査にて結核菌群陽性となる。QFT 検査も陽性を示した。その後、抗結核薬 3 剤投与開始し、耳痛も消失し、肉芽も縮小傾向を示した。【症例 2】7 年前に来日したアフリカ出身の 30 歳代男性。8 月頃から左臀部に疼痛を認め、その後同部位が腫脹した。12 月他院受診し、左臀部皮下にソフトボール大の嚢胞を認めた。関連病院穿刺液の抗酸菌塗抹検査でガフキー陰性、PCR 検査で結核菌群陽性、当院受診。MRI 検査で第 3-8 胸椎椎体の右側前方に軟部膿瘍腫瘤と第４胸椎椎体右側および第５肋骨頭に溶骨性変化を認めた為、脊椎カリエスと診断した。抗結核薬 4 剤で治療を開始し、その後 2 剤に変更。骨破壊の進行もなく経過良好である。【考察】肺結核の時に診断の遅れから、院内感染などの問題を招くことがあるが、肺外結核ではさらに診断が遅れ、治療や感染対策上の問題となる。結核病棟を有する医療機関が少なくなる中、このような肺外結核患者を診療する機会が少なくなっている。しかし、結核菌は肺以外の臓器にも感染する全身の感染症であり、常に肺外結核を念頭におき、診療することが重要である。（会員外共同研究者：埼玉医科大学病院　耳鼻科　松田　帆）

P 52

Clarithromycin の代替薬として Azithromycin を使用した肺 MAC 症の２例

[1] 福島県立医科大学附属病院　呼吸器内科

○大島 謙吾[1]、谷野　功典[1]、二階堂　雄文[1]、石田　卓[1]

肺 *Mycobacterium avium complex* 感染症（肺 MAC 症）は中高年の女性に好発する非結核性抗酸菌症で、本邦では Clarithromycin (CAM) , Rifampicin (RFP) , Ethanbutol（EB）の 3 剤併用抗菌化学療法が標準治療とされている。Azithromycin（AZM）は 15 員環マクロライド系抗菌薬であり、ATS/IDSA のガイドラインでは肺 MAC 症の治療における CAM の代替薬として挙げられている。我々はこの度、CAM の代替薬として AZM を使用した肺 MAC 症の 2 例を経験したので報告する。【症例 1】66 歳女性、201×年 9 月難治性細気管支炎として前医より当科に紹介受診。胸部 CT では中葉と左下葉に気道散布性の粒状影と気管支拡張像を認めた。中葉からの気管支肺胞洗浄液の抗酸菌塗沫検査陽性、PCR 検査にて *M. avium* が陽性で、肺 MAC 症と診断した。CAM 800 mg/day , RFP 450 mg/day, EB 750 mg/day による抗菌化学療法を開始したが、CAM 内服による薬疹が出現した。そこで、AZM 250 mg/day を代替薬として内服開始したが、副作用は出現せず、自覚症状と画像所見は改善し排菌は消失した。【症例 2】65 歳女性。201×年 4 月血痰を主訴に当科受診。胸部 CT 検査にて中葉と舌区を中心に気道散布性の粒状影を認めた。舌区からの気管支肺胞洗浄液の抗酸菌塗沫検査陽性、PCR 検査にて M. avium が陽性で、肺 MAC 症と診断した。CAM 800 mg/day , RFP 450 mg/day, EB 750 mg/day による抗菌化学療法を開始したが、内服開始 7 日目の両側下腿と足背に浮腫が出現した。CAM の休薬により浮腫は速やかに改善したため、浮腫は CAM による副作用と判断した。AZM 250 mg/day を CAM の代替薬として内服開始した。内服後も特に副作用なく、自覚症状と画像所見は改善し排菌は消失した。【結論】本邦の肺 MAC 症患者においても AZM は CAM の代替薬となりうる可能性が示唆された。